

●事例報告

令和4年度東京大学附属図書館特別展示

「テエベス百門の断面図 歿後100年記念森鷗外旧蔵書展」
でのギャラリー構築について

または私たちは如何にして心配するのを止めてギャラリーを利用するようになったか



Hello!



東京大学附属図書館（総合図書館）
情報サービス課 資料整備チーム係長
中村 美里 *NAKAMURA.Misa*

Current Job

- 貴重図書、保存書庫資料の管理・デジタル化
- 書庫の環境保全
- 障害のある利用者への資料電子化サービス
- その他いろいろ



● 令和4年度東京大学附属図書館特別展示 テエベス百門の断面図 歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展について

- 2022年は森鷗外の生誕160年・没後100年（1862 – 1922）のメモリアルイヤー
- 東京都文京区では「森鷗外没後100年記念事業」を開催
- 森鷗外の旧蔵書である「鷗外文庫」を擁する東京大学附属図書館でも、鷗外文庫の特別展示会を開催することが2021年度中に決定
- 附属図書館職員による職務横断的な展示委員会委員により、企画検討を進める

※指揮・監修は本学の総合文化研究科・出口智之准教授



(森鷗外没後100年記念事業案内)



(鷗外文庫 書架)

● 「テエベス百門の断面図」電子展示サイトの検討

■現物資料の展示と連動した電子展示サイトの構築を当初から目指す

→ 来館できない人も展示を楽しめるように

→ ウェブへの誘導 = 自宅などでもゆっくり閲覧可 = コロナ対応の一環として

- 方針① 展示資料の情報（書誌データと解説、最低でも画像1枚）を漏れなく搭載する
- 方針② 電子展示ならではの情報も発信する
- 条件① 電子展示サイト担当者（複数名）による共同編集
- 条件② 展示会の目玉となる、新たに発見された森鷗外直筆草稿のプレスリリースを展示会直前に実施 → 電子展示サイトも注目されることが予想
→ 見栄えの良いサイトにしたい、プレスリリースまでは情報が外に漏れないように準備しなければならない・・・



何を使って
サイトを作る？

● 「テエベス百門の断面図」 電子展示サイトの検討

■案1：附属図書館ウェブサイト上に構築

→システム上、デザインの制約等があり使いづらい

■案2：HTMLタグを駆使してサイトを構築

→恐らく大変、、、

■案3：デジタルアーカイブ担当教員が独自開発し構築

(電子展示『摺拾帖』での実績あり)

- ・ 独自開発を行う時間的余裕があまりない
- ・ 構築できたとしても、データ更新を都度、開発者に依頼することになる
(委員会担当者側で編集・更新ができない)

→現実的に難しい、、、



<https://kunshujo-i.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>





JAPAN SEARCH

日本のデジタルアーカイブを探そう

[総目録](#) [総ラッシュ](#) [Q 印刷版](#) [Q 新刊](#) [Q 本紙](#)



ジャ、、、、ジャパンサーチ?!

● 「テエベス百門の断面図」 電子展示サイトの検討

- 図書館では、学内広報のコラムをギャラリー上で公開している実績あり
(「東京大学学内広報コラム デジタル万華鏡」 <https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-digitalkaleidoscope>)
- ギャラリーのテスト構築を行い、「いけそう！」という感触を得られた
- 展示委員会、監修者の先生の了承を得て、正式に「ギャラリー」での構築を決定
- 了承を得る際にPRしたポイント
 1. 電子展示サイトとして必要な機能が一通り揃っている
 2. 担当者それぞれがアカウントを取得し、共同編集することができる
 3. 担当者だけがアクセスできる環境を設定できる
 4. ジャパンサーチの利用者に、展示会のことを知ってもらう良い機会になる
 5. 無料！



デメリットとして、
見た目が「東京大学附属図書館のサイト」
ではなく
「ジャパンサーチ」であることも説明



● 電子展示サイト構築のいろいろ

- 電子展示サイト構築は5名で担当 **(全員、ギャラリー構築の初心者！)**
- ワークスペース内に構築用とテスト用のページを作り、動作確認をしたい場合はテスト用ページで試行錯誤をしてから構築を進めた
- 展示会図録（冊子）の作成を先行して進めており、電子展示サイトに掲載する内容は概ね固まっていた → それをどうギャラリー上で表現するか？ → 他機関が作成したギャラリーをとにかく参照



- 展示会図録の各章を「セクション」に見立ててサイトを構成
- 図録では各章の特筆すべき資料を特出して掲載 → 電子展示サイトでも同様の強弱を付ける（通常は「リスト」で並べ、推しの資料は「解説付き画像」で表示）
- 展示ケースに入りきれず泣く泣く落とした資料が多数あった → 電子展示電子サイトにはスペースの制約がないので、積極的に掲載した
- 関連作品も積極的に電子展示サイトで紹介

電子ならではの
情報発信

● 電子展示サイト構築のいろいろ

1-1 詩経

しきょう
 (原)毛公傳; (漢)鄭氏箋; (明)金鍾訂; (日)井通明[校] 延享4(1747)年刊
 儒学の基本テキストである『五経』の一つ、詩外自篇の巻外への注記は、明治14(1881)年ころの書入れと想定され、近世日本の儒学の書誌を引用し、その解釈を参考にしながら経書に載しこんでいたことがうかがえる。(倉山、一部改題)

1-3 蘭学事始
 らんがく ことばじゆ
 杉原武吉著 明治2(1869)年

1-4 蘭学辞文字彙
 りんがくごんごん ことばご
 伊藤繁智; 島田三祐; 中島忠成編

1-5 大橋本草
 おおはしほんそう
 作家と 徳川家光

1-6 蘭草考
 らんそう 考
 杉原武吉著 寛政4(1793)年

1-7 Felix von Niemeyer's
 Lehrbuch der speciellen
 Pathologie und Therapie mit
 hessischen Blickstein auf

【強弱を付けた表示】

1-14 松染情史秋七草

しょうせん じょうし あき の
 ななくさ
 滝沢馬琴著 明治16(1883)年
 曲亭(滝沢)馬琴の読本。扉は鶴外または篤次郎の自作で、「橋北橋井堂」とは、父が千住大橋北側の千住にて

【文化デジタルライブラリー】歌舞伎事典:千秋楽(千鶴楽)

このリンク先は鶴外文庫ではなく文化デジタルライブラリーの歌舞伎事典です。

*この資料は電子展示のみです。会場での展示はありません。

【関連資料の表示】

(「この資料は電子展示のみです。会場での展示はありません。」と明記。)

● 電子展示サイト構築のいろいろ

【地図から見る鷗外文庫】

地図から見る鷗外文庫

鷗外文庫書入本画像データベースで公開している資料を、地図から辿ることができます。東京、小倉、ドイツなど様々なエリアへご案内します。



電子ならではの
情報発信

※「リスト」内の地図表示を用いて、地域性を持つ資料を地図上に落とし込んでみた
(東京、小倉、奈良、ドイツ・・・etc)

時間があれば年表機能（年表案：鷗外の書入れを年齢順に見せる、蔵書印を年代順に見せる等）や「外部サイト公開」なども活用したかったが、、、時間切れ

● 電子展示サイト構築にあたって

- ギャラリー構築は初めてだったので、とにかく手探りで実施
 - マニュアルは一通り読んだものの操作が分からないことも多々あり、とにかくテストサイトで試行錯誤を繰り返した
 - 職場全体でチャットツールが導入されており、電子展示担当メンバーのチャットグループで細々とした報告をしあえた
 - NDLにも質問メールを多々送り、細やかに指導してもらえた
-
- 10月12日（展示開始日の前日・プレス内覧会日）を公開日に設定し、現実には突貫工事で作業 → **10月12日にワークスペースの内容を本番環境に移築して無事に一般公開！**
 - 10月12日のプレス内覧会と翌日以降の来館者用に、A4・1枚の電子展示サイト案内（チラシ）を作成し、展示会の内容がほぼウェブでも見られることをPR





電子展示サイトのご案内



<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-ogai2022>



東京大学附属図書館特別展示「テエベス百門の断面図」では、場所や時間を問わず、いつでも展示資料を楽しめる電子展示サイトを公開しています。
新たに発見された鷗外自筆の未発表草稿はもちろん、数多くの鷗外自筆資料など、あたかも会場にいるかのように全ての展示資料をご覧いただけます。
展示会場を訪れる前の下調べに、あるいは「あの資料をもう一度見たい」といったときに便利です。また会場にはない資料も電子展示サイトでは紹介していますので、デジタルの世界でも鷗外文庫の多様多様さをお楽しみください。

未完草稿 ガブリエーレ・ロッセティのダンテ受容に 関する草稿

原稿用紙2枚から成る資料で、電子展示では表・裏の計4枚の画像を公開しています。



「テエベス百門の断面図」を体感できる 5つの章

展示会場と同じく、「第1章 医学生鷗外」「第2章 職務に向き合う」「第3章 知識への渴望」「第4章 人脈のなかで」「第5章 作品への通路」の資料を、順を追ってゆっくりと閲覧できます。

地図で見る鷗外文庫

鷗外文庫書人本画像データベースで公開している資料を地図からたどれます。東京、小倉、ドイツなど様々なエリアへご案内します。



- この電子展示サイトは、国立国会図書館が運用するジャパンサーチの「ギャラリー」を活用して構築しています。
<https://jpsearch.go.jp/gallery>
- 展示会や記念講演会に関する情報は、特別展示の専用サイトをご覧ください。
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/html/tenjikai/tenjikai2022/index.html>



● 電子展示サイト構築にあたって

- こちらが意図する表示にならないことも少しあったが、それでも展示サイトとして十分な機能を持つ「ギャラリー」が無料で使えるメリットは大きかった
- 担当者間で自由に編集・更新できる点が便利 → 別の担当者にサイトを構築してもらったり、データ更新を依頼したりする手間が全くなかったことは大きな省力化に繋がった
- ジャパンサーチ上のコンテンツを検索していくうちに、「こんな資料があったのか」と気が付き、関連資料数が増加していった

ありがとうございます ジャパンサーチ



参考：東京大学附属図書館関連情報

1. テエベス百門の断面図 歿後100年記念森鷗外旧蔵書展ギャラリー
<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-ogai2022>
2. テエベス百門の断面図 歿後100年記念森鷗外旧蔵書展専用サイト
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/html/tenjikai/tenjikai2022/>
3. 鷗外文庫書入本画像データベース
<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ogai/page/home>
4. 東京大学附属図書館デジタルコレクション (図書館のデジタルコンテンツを一覧できます)
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/collection>
5. 東京大学学術資産等アーカイブズポータル (東大全体のデジタルコンテンツを横断検索できます)
<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>